Bリーグを 10 倍楽しむ方法

地域戦略研究所　杉原正樹

はじめに

島根スサノオマジックの 2016-2017 シーズンは、Bリーグ 2 部準優勝、B1 最短昇格という結果で終了した。B2 最高勝率でプレーオフに進出したが、残念ながら決勝で敗れ、B2 初年度優勝という記録を残すことはできなかった。とは言え、来シーズンのB1 昇格を実現したことは間違いなく評価されてしかるべきものである。

2017-2018 シーズンはB1 で戦うことになり、相手チームも島根の属する西地区でみても、bj リーグ時代苦戦した、琉球、大阪、京都、ほぼ互角であった滋賀、B2 チャンピオンシップで負けた西宮と気の抜けないチームばかりであり苦戦は必死。

そこで、勝てない試合が続いてもBリーグを楽しむ方法をゆるく考えてみたい。

1　2016-2017 の振り返りと B1 での展望

新シーズンについて考える前に、2016-2017 シーズンのスサノオマジックの戦い振りを簡単ではあるが振りかえり、その後厳しいと想定される新シーズンについてみてみたい。

1-1　2016-2017 シーズンのスサノオマジック

島根は、Bリーグ初年度B2 でのスタートとなり、最短B1 昇格を掲げシーズンを戦った結果西地区１位でプレーオフに進出し、B1 昇格を決定した。

スサノオマジックHP に掲載されている 2016-2017 シーズンレポートを参考にして、振り返ってみてみると、成績は 51 勝 9 敗、21 連勝のリーグ記録を作るなど圧倒的な快進撃であったことがわかる。観客動員はレギュラーシーズン 45,042 人、1 試合平均 1,501 人であった。bj 最後の 2015-2016 シーズンは、レギュラーシーズン 42,926 人、1 試合平均 1,651 人でありB1 は、新リーグ効果で大きく観客動員を伸ばしたが、島根には 2 部リーグ効果が働いて観客動員は 1 試合平均で約 10%の減少となった。

プレーオフを含めての観客動員数は、52,118 人、1 試合平均 1,629 人であり、bj 時代第 3 章の 2012-2013 の 53,059 人、1 試合平均 1,895 人の最大値には及ばなかった。しかし、1 試合当たりの最大動員数では、レギュラーシーズンで 4,011 人、プレーオフで 4,203 人を記録し、今後の動員に希望を持たせる数字を出している。

1-2　B1 リーグのレギュレーション

来季のB1 リーグも東、中、西の 3 地区制、1 地区 6 チームの 18 チームで優勝を争う。

試合は 60 試合のリーグ戦方式で、内訳は、チームの所属する地区のチームと 6 回戦の 30 試合、他の地区のチームと 30 試合(2 試合×12 チームの 24 試合+6 試合)の合計 60 試合である。

その他のレギュレーションについては、2016-2017 シーズンと同様であれば、優勝決定のプレーオフは、各地区上位 2 チームとそれ以外の勝率上位 2 チームの計 8 チームで優

勝を争う。また、残留プレーオフについては、年間下位の 4 チームでトーナメントを実施し、1 回戦敗退 2 チームが自動降格、2 回戦敗退 1 チームがＢ2 の 3 位チームと入替戦を行うことになる。

外国人選手の登録は、Ｂ2 と同様の 3 名、クォーター毎の出場枠が 0～2 名、総枠数が 6 枠となっており、どのクォーターに何人出すかはチーム毎に設定し開始前に申請することになっている。

チーム毎に任意で設定するため、外国人の出場パターンが相手チームと異なる場合、日本人選手が外国人選手につかなくてはいけない時間帯が発生し、日本人選手の力量アップを狙ったルール設定となっている。

※B1 での外国人選手出場パターン例

クォーター	1Q	2Q	3Q	4Q
出場選手数例	1 名	2 名	1 名	2 名
	1 名	1 名	2 名	2 名
	0 名	2 名	2 名	2 名

1-3　B1 での展望

スサノオマジックは、来季西地区で戦うことに決定した。各地区のチーム配分は以下の表の通り。

地区	チーム名					
東地区	北海道	栃木	千葉	A 東京	渋谷	川崎
中地区	横浜	新潟	三遠	三河	名古屋	富山
西地区	滋賀	京都	大阪	西宮	島根	琉球

西地区には、５強と呼ばれるチーム(栃木、千葉、Ａ東京、川崎、三河)は、1 チームも入っていないが、bj 時代の西地区上位チーム(滋賀、京都、大阪、琉球)と、B2 優勝の西宮が入っており決して楽な地区ではないと思われるため、今シーズンのような連勝街道を突っ走ったシーズンではなく、第 4 章や第 5 章の時のように連敗を我慢するシーズンになると予想される。今シーズン滋賀が 21 勝 39 敗で残留を決定したことを考えると、20 勝できれば上出来のシーズンとなるのではないかと思われる。

2　Ｂリーグの楽しみ方

来シーズンは単純に勝つことを楽しむことはできないシーズンとなることは明白であるため、単純に勝つこと以外での楽しみ方を考えてみたい。

2-1　データで楽しむ　（スタッツの見方）

野球では選手の能力を打率や防御率等の指標に数値化して見るのが一般的になってい

るが、バスケットボールでも選手の能力を各種指標を用いて楽しむことができる。それがスタッツと呼ばれるデータである。

下に示した図がＢリーグで示されているスタッツの 1 例である。主な指標としては、平均得点数、各種シュートのトライ数と成功率、リバウンド獲得数、アシスト数、出場時間数が挙げられる。3 ポイントシューターなのか、リバウンドに強い選手なのか、所属選出の出場時間の割合から、特定の選手に頼っているチームなのかどうか等の情報分析をして楽しむことができる。

スタッツサンプル

シーズンスタッツ

PO	G	GS	PTS	PPS	3FGM	3FGA	3FG%	2FGM	2FGA	2FG%	FGM	FGA	FG%	FTM	FTA	FT%	F	FO	OR	DR	TR	TO	AS	ST	BS	BSR	EFF	MIN
PF	57	1	744	13.1	0	1	0%	301	496	60.7%	301	497	60.6%	142	263	54%	119	256	209	433	642	105	102	64	77	24	21	21:48:57

PO:ポジション　G:試合数　GS:スターティング数　PTS:得点数　PPS:平均得点数　3FGM:3ポイントシュート成功数　3FGA:3ポイントシュート試投数　3FG%:3ポイントシュート成功率　2FGM:2ポイントシュート成功数　2FGA:2ポイントシュート試投数　2FG%:2ポイントシュート成功率　FGM:フィールドゴール成功数　FGA:フィールドゴール試投数　FG%:フィールドゴール成功率　FTM:フリースロー成功数　FTA:フリースロー試投数　FT%:フリースロー成功率　F:パーソナルファウル数　FO:被ファウル数　OR:オフェンスリバウンド数　DR:ディフェンスリバウンド数　TR:トータルリバウンド数　TO:ターンオーバー数　AS:アシスト数　ST:スティール数　BS:ブロック数　BSR:被ブロック数　EFF:貢献度　MIN:出場時間

（スポナビより http://sportsnavi.ht.kyodo-d.jp/basketball/stats/b2/player/8844/）

2-2　人間関係を楽しむ

新ヘッドコーチの鈴木ヘッドコーチは、大阪の桶谷ヘッドコーチ、千葉の大野ヘッドコーチと同学年である。鈴木ヘッドコーチが金沢を辞め島根を選択した理由の一つとして、彼らと B1 で戦いたかったということがウエッブのインタビュー記事に載っていた。

こうしたエピソードを踏まえて大阪、千葉との対戦の見方が変わってくると思われる。

現在はウェッブを使えば選手やコーチの情報も探しやすくなっていることから、こうした楽しみ方も有りかと思われる。

2-3　試合会場で楽しむ

やはり試合は会場で見るのが一番であるといえる。特にローカルテレビ中継では、放送枠時間を超えると試合の途中でも放送終了となり、最後まで見れないときもある。また、チアの活躍はテレビでは割愛されているので、アクアマジックを見るためには、会場に行くしかない。プロバスケットボールは、チア無しでは成立しないと言っても過言ではないと思っている人も多数いると思われる。

昨シーズンの試合当たり最多入場者数 4,200 人を記録した時の場内は大きく盛り上がった。この雰囲気は現場でなければ感じられないであろう。

2-4　B1 を楽しむ

Ｂ1 には日本代表、元代表、元 NBA にいたこともある外国人選手が多数所属している。これが決定的にＢ2 とは違う点である。スサノオマジックをベースとしながらも、他チームのスター選手のプレーを生で見ることができるのも楽しみの一つとなる。自虐的では

あるが、他チームのスター選手を見て楽しむことも有りである。

3 負けても応援されるチーム

プロスポーツチームであるので勝利するということは重要なことであるが、勝っても負けても応援してもらえるチームが理想である。

B1 のチームは運営規模がB2 とは格段に違う。降格した仙台でも運営規模は約 4 億 3 千万円といわれている。選手人件費も運営費の 1/3 とすると 1 億 4 千万円はかけていると思われる。ｂｊではサラリーキャップがあり、7 千 5 百万円の人権費がほぼ上限であったが、B1 はその倍が最低ラインといっても良い所である。

展望でも示したが、20 勝できれば良い方であり、40 敗は現状では仕方がないところかもしれない。故に島根のバスケットボール会場は、試合を通して、チアの応援を通して、会場のスタッフを通して、勝敗を超えた何かを感じさせてくれる非日常空間を作り出してほしいと思う。松江市総合体育館を文字通り、「スサノオマジック」を見せてくれる場所にしてもらいたい。GO GO MAGIC

参考　Ｂリーグホームページ　https://www.bleague.jp/
スサノオマジックホームページ　https://www.susanoo-m.com/
仙台 89ERS 記事　http://www.kahoku.co.jp/sports/89ers/20170518_01.html